

被害推定や効果的な初動対応に役立ちます！

推計震度分布図について

今回は、震度5弱以上の地震が発生した場合に、地震発生から約10～30分後に気象庁が提供する「推計震度分布図」について説明します。

◎どんな図ですか？（図1の右の図）

実際に震度観測点で観測された震度データをもとに、震度計のないところについても1kmメッシュ単位で震度を推計し、震度4以上の震度の広がりを表した図です。

◎何に使えますか？

強い揺れを観測した領域の広がり様子を早期に把握することができるため、被害の程度と地域の広がり推定や効果的な初動対応の判断に役立つと考えます。

◎見る方法は？

防災情報提供システム（図2：地方自治体等の防災関係機関に限り利用可能）や気象庁のホームページ <http://www.data.jma.go.jp/svd/eew/data/suikai/index.html> で見ることができます。

◎留意事項はありますか？

地震の際に観測される震度は、ごく近い場所でも地盤の違いなどにより1階級程度異なることがあります。また、このほか震度を推計する際にも誤差が含まれますので、推計された震度と実際の震度が1階級程度ずれることがあります。このため、個々のメッシュの位置や震度の値ではなく、大きな震度の面的な広がり具合とその形状に着目してご利用下さい。

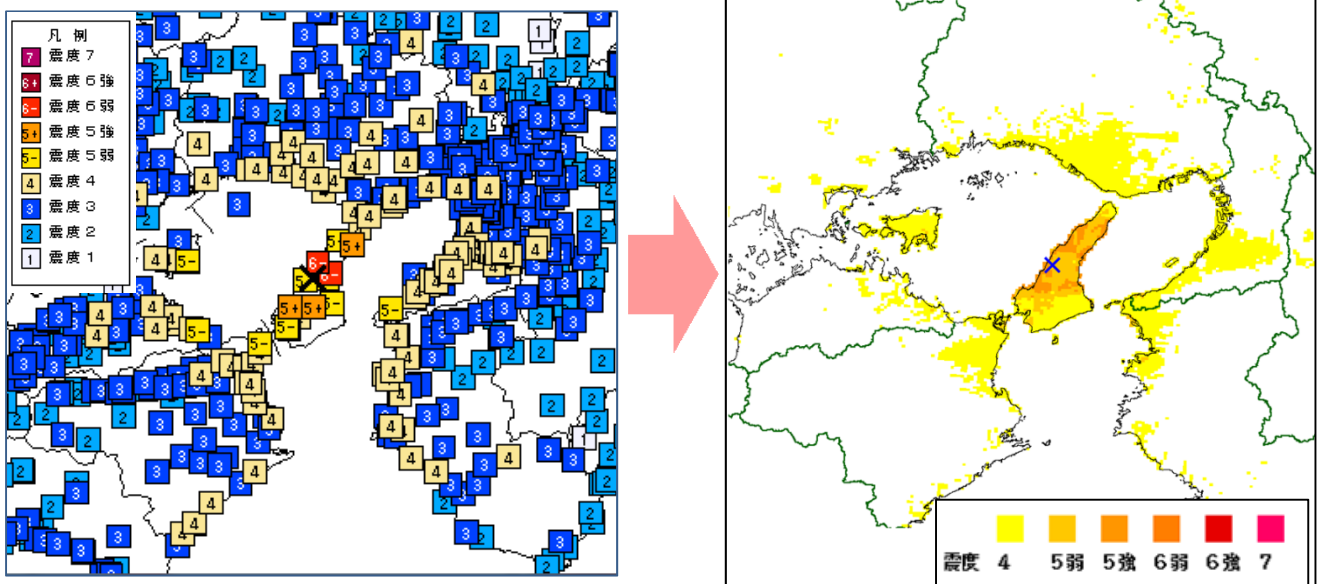
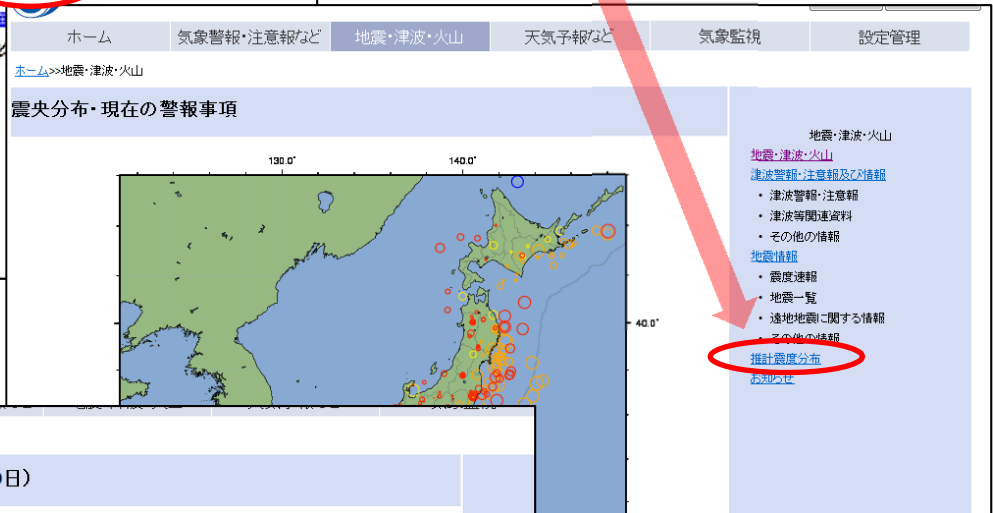


図1 2013年4月13日05時33分 淡路島付近の地震（M6.3、深さ15km）の例
（左）観測された震度の分布図 （右）推計震度分布図

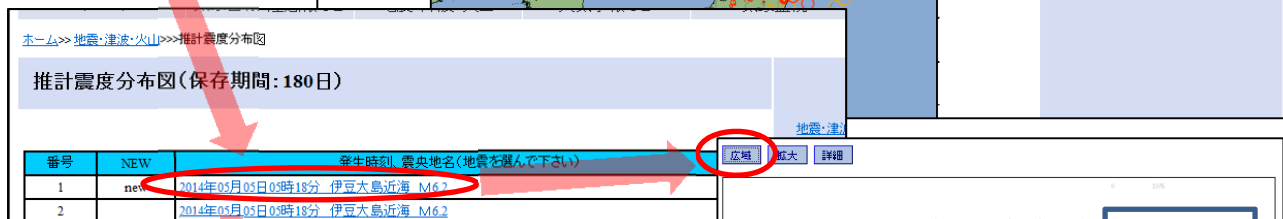
① ログインすると表示される画面で地震・津波・火山をクリック



② 推計震度分布をクリック

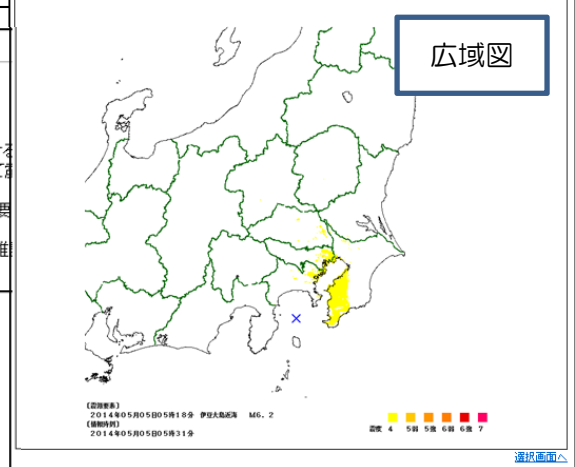


③ リストで目的の地震を選択



推計震度分布図について

推計震度分布図は、震度計で観測された震度をもとに、地表付近の地盤の増幅度(地表付近における増幅を示す指標)を使用して1km四方の格子間隔で震度を推計し、震度計のない場所も含めて面的に表現したものです。原則として全国で震度5弱以上を観測した地震について、広域図を拡大図に解説を付けて提供し必要に応じて詳細図も付加します。図を活用する場合、大きな震度の面的な拡がりやその形状に着目することが重要です。また、推計された震度の値は、場合によっては1階級程度異なる場合があります。



推計震度分布図

震度4の地域では、床の重い塵物が倒れるなどしている可能性があります。

<推計震度分布図利用の留意事項>
 地震の際に観測される震度は、ごく近い場所でも地盤の違いなどにより1階級程度異なる場合があります。また、このほか震度を推計する際にも誤差が含まれますので、推計された震度と実際の震度が1階級程度異なる場合があります。このため、震度のメッシュの位置や震度の値ではなく、大きな震度の面的な拡がり具合とその形状に着目してご利用下さい。

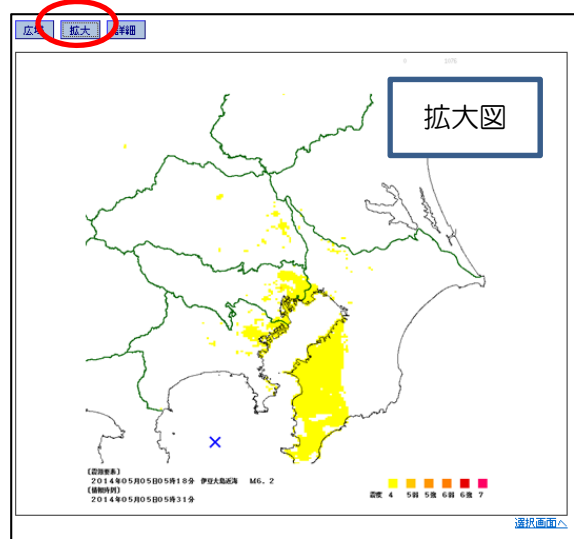
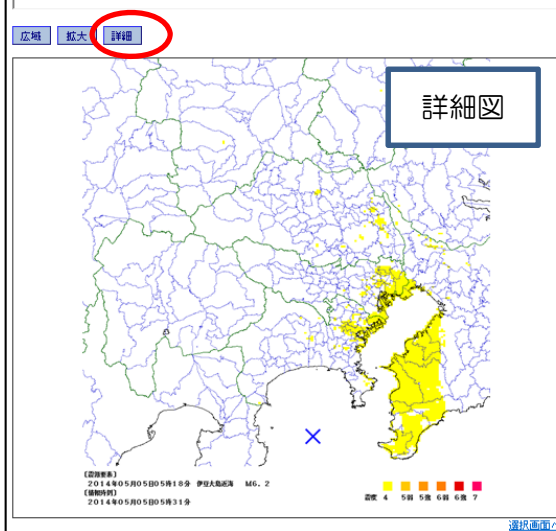


図2 防災情報提供システムにおける推計震度分布図の表示方法